

講義名	基礎技能A（数的処理II）		
科目区分	教養基礎		
担当教員	川合 宏之		
開講期・曜日・時限	後期 月曜日 2時限	授業形態	
	2020年度 人間社会学部 人間健康学科/2020年度 人間社会学部 観光学科/2020年度 人間社会学部 人間社会学科/2020年度 経済学部 経済情報学科/2020年度 経済学部 経済学科/2020年度 商学部 マーケティング学科/2020年度 商学部 経営学科/2019年度 人間社会学部 人間健康学科 スポーツマネジメントコース/2019年度 人		
履修開始年次	2年生	単位数	2
		備考	

主題と概要
<p>ビジネス社会では複雑な計算や大量のデータ処理にコンピュータを用い、多数のデータの中から役立つ情報を適切に読み取り、計算処理や論理的思考により分析し、様々な意思決定を行う。そのための数的処理能力は不可欠である。</p> <p>本講義では、民間企業において入社試験の1つとして、多くの企業で活用されている「SPI 試験」の対策の立て方を学ぶ。文系の学生が苦手意識を持ちやすい非言語分野を中心に頻出問題・必出問題についての基本的な解法パターンを学ぶ。自分の志望企業で社会人としてのスタートを切るためにも、民間企業就職を希望する学生の履修を勧める。</p>

到達目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な計算処理及び論理的思考を理解し、数的問題の解を得ることができる。</li> <li>出題範囲を知り、基本的な解法パターンを身につける。</li> <li>得意分野と苦手分野を把握し、苦手意識を払しょくする。</li> </ul>

提出課題
<p>毎回、演習課題を与えるので、能動的に演習し数的問題の解を求めること。また、授業中に完成できなかった演習課題は、次回までに完成させておくこと。そして、次項に示す「準備学修（予習・復習等）」の具体的な内容及びそれに必要な時間」に示した主体的学習を期待する。</p>

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック
<p>授業内で実施した小テスト等の解答・解説を行う。これにより自己採点と復習を可能とする。</p>

評価の基準
<p>各回の小テスト（50%）・課題提出（テキスト内容及びWEB講義受講を前提とした課題提出を含む）（50%）により評価する。</p>

履修にあたっての注意・助言他
<ul style="list-style-type: none"> <li>授業を担当する株式会社東京リーガルマインドが事前にテキスト（4,400円税込）を販売する。販売日・方法を確認のうえ、各自購入すること。</li> <li>試験期間に試験は行わず、成績は授業期間内で全て評価される。毎回出席すること。</li> <li>欠席した場合は、その回の学習内容・課題等を担当教員に聞き、自習しておくこと。</li> </ul>

教科書
<p>・事前販売（販売日・方法を確認のうえ、各自購入すること）。</p> <p style="text-align: right;">東京リーガルマイ 4400 ソンド</p>

プリント資料及び参考文献
<p>必要に応じて授業の中で紹介する。</p>

授業計画
<p>第1回 数的処理の概要及び数学基礎（受講ルール、方程式等の数学基礎、就職試験との関わり等）</p> <p>第2回 方程式（文章題の計算、方程式、数列等）</p> <p>第3回 割合（元の量、比べる量、割合、比率等）</p> <p>第4回 損益算（原価、売価、利益、損益、利益率、割引率等）</p> <p>第5回 仕事算（仕事の量と仕事の負担、仕事時間の計算等）</p> <p>第6回 濃度算その1（全体量と当該物の量、濃度表、簡単な濃度計算等）</p> <p>第7回 濃度算その2（各種濃度計算等）</p> <p>第8回 速度算その1（時間・距離・速度、速度変化、時刻表等）</p> <p>第9回 速度算その2（旅人算、追いつけ算、流水算、通過算等）</p> <p>第10回 順列・組み合わせ（順列、円順列、組み合わせ等）</p> <p>第11回 確率（確率、コイン問題、サイコロ問題、くじ引き問題等）</p> <p>第12回 命題（命題、対偶、三段論法等）</p> <p>第13回 集合（集合、条件、グループ分け、キャロル表、線分図等）</p> <p>第14回 資料の読み取り（表・グラフの読み取り、各種グラフの選択等）</p> <p>第15回 学習のまとめ（既習事項の要点整理）</p> <p>* 受講者数や状況に応じて講義内容やスケジュールは変更される可能性がある。</p>

授業形態（アクティブ・ラーニング）
<p>ア：PBL（課題解決型学習）</p> <p>イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）</p> <p>ウ：ディスカッション、ディベート</p> <p>エ：グループワーク</p> <p>オ：プレゼンテーション</p> <p>カ：実習、フィールドワーク</p>

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間
<p>事前学習には 0.5 時間以上、事後学習には 0.5 時間以上の学習時間を確保すること。</p>

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考
<p>上記以外の担当者：株式会社東京リーガルマインド専任講師 質問がある場合には授業終了後などに教室で受け付ける。</p>